

＝ 南州市この一年 ＝

3 月



南州市振興計画作成を約束

本市には、財政再建、し尿処理の深刻な課題と空港、南国(領石)インターチェンジ、東部流域下水道、十市パークタウン、医大、阿佐線などの大きなプロジェクトが目白押し。

3月定例市議会の一一般質問の中で、大きく変わろうとする「過渡期」の本市には基本構想がなく、具体策にとぼしいことが指適され、「振興計画作成」の必要性がきげられました。これをうけて市長は、振興計画作成を手がけることを約束しました。

2 月

市連合婦人会が20周年

教養を高め、婦人の生活と地位の向上を図ろうと、昭和35年2月3日、市が発足した直後に結成された「南州市連合婦人会」(会員=3235名)が20周年を迎えました。

結成されて以来、さまざまな活動が行われてきましたが、なかでも『市政会議(昭和36年までは模擬市議会)』は、市政を知る上において重要な位置を占め、市連合婦人会の活動の大きな柱になっています。



2 月

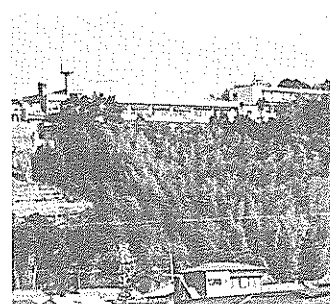


比江山処分、臨時議会で可決

財政再建のカギをにぎり、市の懸案となっていた「比江山(約10ha)」を県中央木材工業団地協同組合に9億円で売却する件について、2月8日、臨時議会議が開かれ、「市の財政再建にはやむを得ない」ということで、条件つきながらも全会一致で可決されました。

北部運動公園用地として買収していた比江山は、この議決によって木材団地に変わるようになりました。

6 月



『土佐希望の家』が10周年

昭和45年6月、多くの困難や障害をのりこえて建設、開園された小笠の心身障害児施設『土佐希望の家』が10周年を迎え、6月8日、関係者約170名が参加して記念式典が行われました。

職員・園児の和と周囲の人々の理解によって10年が経過、これからも人間の生きる権利の最後のとりでとして、愛の手をさしのべなければなりません。

5 月

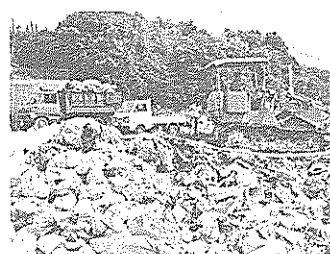
市内の農業用施設 相次いで落成

農業の近代化をめざす市内の農協で、立派な施設が相次いで落成。岩村農協—ピーマンなどの出荷の能率化のための「集出荷場」、みそ、しょう油の加工場としての「農産物簡易加工所」をそれぞれ建築。

南州市農協—糞尿公害の防止と土づくりにと「堆肥センター」、みそ造りなど米消費拡大にと「みそ加工講習所」をそれぞれ建築。これらの施設は、農家の営農面に一役買うことが期待されています。



4 月



不燃物ゴミ埋立地閉鎖

市内の家庭から出る「不燃物ゴミ」を投棄している「片山の不燃物ゴミ埋め立て地」が、「ゴミの埋め方、管理がずさんである」として、地元民が投棄の一時ストップを要求。市側に埋め立て地の環境整備を申し入れました。

この間、家庭から出された不燃物ゴミは、市役所北側の駐車場に野積みされ、深刻な状態になりましたが、地元と公害防止協定が結ばれ、21日ぶりに投棄が再開されました。

2 月



吾岡山のカット、ジェット機就航に不可欠

ジェット化に向けて進められている「高知空港拡張整備事業」—高知空港対策調査特別委員会が2月25日開かれ、この中で、①ジェット機の離着陸の際の保安上の理由から、吾岡山は約6m程度切取らなければならないことが明らかになりました。

また、空港ビルについては、第三セクター方式による管理運営がなされることも明らかになりました。

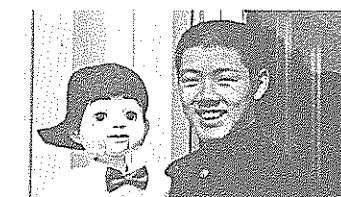
1 月

溝渕くん、NHK青年の主張で優秀賞

1月15日の「第26回NHK青年の主張全国コンクール全国大会」に四国代表として出場した溝渕賢二くん(大畑)が、みごと最優秀、文部大臣奨励賞に輝きました。

溝渕くんは県立農業高校3年生、高知県子供会連合会のリーダーとして活躍、3級腹話術師の特技を生かして幅広い活動をしており、その体験をもちこんだ「私の挑戦」と題する「笑いのボランティア活動」を発表したものです。

笑いをさそった意見発表は、広くみなさんに好感を与えました。



1 月

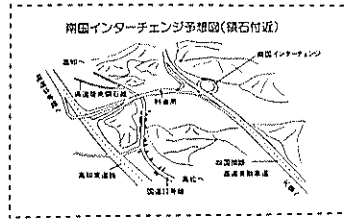


大篠小・浦臼小が姉妹校に

大篠小学校と北海道の浦臼(うらうす)小学校が1月24日、姉妹校の縁組みをしました。

両校を結びつけたのは、明治時代国会議員を辞め北海道に入植した、大篠小校下の住吉野出身の武市安哉(1847~1895)。安哉は、浦臼小の子どもたちに「浦臼を開拓し、学校を開いた人」と親しまれている人物。

当日は、浦臼小学校から虎尾利一校長が来校。協定書の調印後、式典が行われ、両校の「友情を深めていく」ことを約束しました。



南国インター、 地元との設計協議へ

四国横断高速自動車道の「南国(領石)インターチェンジ」についての話し合いが10月15日、「南国インターチェンジ対策協議会総会」のなかで行われ、道路公団、県、市の三者からほぼ地元の要求にそったかたちの回答が出され、協議会はこれを了承しました。

今後、公団の青写真をもとに地元関係者との協議が進められ、くい打ち、測量、用地買収などの難題が残されています。

高知空港拡張整備 本体工事着工

50年代末のジェット機就航に向けて進められている「高知空港拡張整備事業」の本体工事の起工式が10月23日、新滑走路となる秋田川左岸の現地に、関係者約140人が出席して行われました。

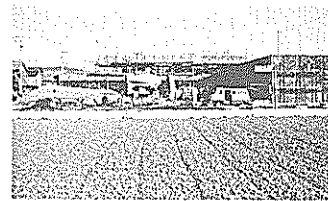
新空港は完成すると、現在の約3倍になり、それに要する経費は、滑走路の拡張工事(2000億円)、周辺整備工事、騒音対策工事、吾岡山の切り取り、ターミナル工事など合わせると約500億円にのぼるともいわれています。



全国一斉に国勢調査

国の最も基本的な統計調査である「国勢調査」が、10月1日に実施されました。

南国市では、231人の調査員が調査にあたり、昭和55年10月1日現在の南国市の人口、世帯数は、人口44,866人、13,744世帯(昭和50年10月1日—人口43,585人、13,482世帯)とわかり、昭和50年に比べ、人口で1281人、262世帯が増加し、人口は少しずつ増えていることがわかりました。



国府小学校、 後免保育所改築工事着工

国府小学校は、教室数が不足していることや、老朽化していること、比江山を木材団地へ売却する際の地元との約束になっていたことから改築されることになり、鉄筋3階建て、工事費2億500万円、来年3月に完成します。

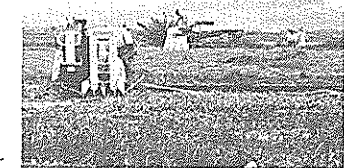
後免保育所は、施設の手狭や老朽化などから改築されるもので、鉄筋2階建て、工事費1億850万円、来年3月には、後免野田小学校の南、旧土電軌道敷地横に完成します。

冷夏、長雨の異常気象

香長平野の夏——それは農家にとって一年中で最も忙しい時期です。

早生稲が黄金色に色づきだすと農家は暑さをこらえ、コンバインを動かし、収穫を喜びます。このような光景は例年見られる風景ですが、今年は雨ばかりの、涼しい日が続く収量も激減。中旬には終るはずの稲刈りも9月までつづき、農家にとっては散々な夏でした。

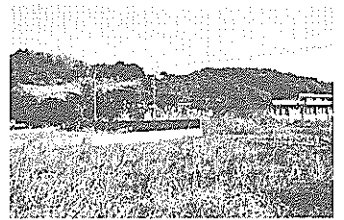
今年の8月、南国特有の照りつけるような「日ざし」は、ほんの4~5日しか見られませんでした。



比江山造成工事着工

高知県中央木材工業団地協同組合へ9億円で売却することになった「比江山」の10haの造成工事の起工式が7月17日、小笠原市長ら関係者多数が出席して行われました。

この造成工事は、標高50~28mを35mにならすもので、工事費4億2千万円を投じて年内に完成、大きく姿を変えて木材団地へ引き渡されることになりました。



吾岡山カットGO!

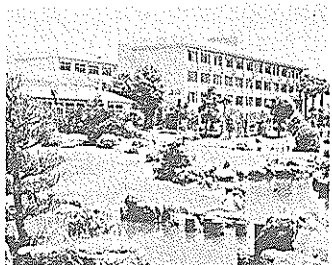
高知空港拡張にともなう吾岡山の切り取り問題——地元からは、この条件として①大篠小の運輸省サイドでの改築②カット後の跡地を市民のいこいの場として利用できる諸施設を③周辺の整備、の3点が出されていましたが、11月末の小笠原市長らの陳情により、運輸省から「大篠小を改築する」との回答がえられ、地元も了承し、来年3月末までにジェット機の飛行に必要な57.43m(いこいの場づくりのためにはさらに必要……)までの切り取りが決定しました。

農業高校が90周年

農業学校として全国で4番目、本県でも小津、追手前高校に次ぐ古い歴史を誇る県立高知農業高校が、創立90周年を迎えました。

遠く外国にまで送り出した卒業生は、これまでに1万4千名、国の基幹産業である農業と共に生き続け、各方面で活躍しています。

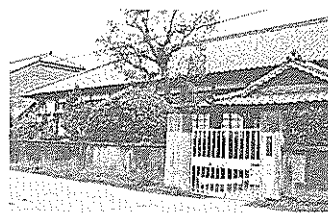
現在、校舎改築4カ年計画の2カ年目で、この計画が完了すればすばらしい学校として、新たなスタートを迎えることとなります。



農業委員6年ぶりに選挙

本市農業委員は40名ですが、そのうち30名は公選委員となっています。今年は32名の立候補で、定数をオーバー、6年ぶりの選挙(11月2日投票)となりました。

11月17日の組織総会では、会長に田村英実氏が、会長代理に溝渕正氏が、農地部会長に北村茂樹氏、農振部会長に中沢芳寛氏がそれぞれ就任、これからの本市農政の目付役として、新たな体制でスタートをきりました。



大篠地区、周辺環境整備 推進会を結成

「ジェット機就航には、吾岡山を約6mカットしなければならぬ」ことが54年末決定されました。

大篠地区では、それまで、吾岡山の公園化や運動場化、大篠小の改築など、別々に運動してきましたが、この決定により、それらをまとめた「大篠地区周辺環境整備推進会」をこの9月に結成して、①大篠小の改築②カット後の跡地利用③地区周辺環境整備をテーマに、その実現をめざしてスタートしました。

『阿佐線対策特別委』発足

後免と徳島県牟岐を結ぶ「阿佐線(延長125km)」は、昭和40年から工事ははじまり、これまでに全体の約40%が完成したものの、国鉄の財政再建問題とからみ、「第3セクター」の設立がなければ工事の継続ができないという、むづかしい状況にたたされました。

阿佐線建設は、後免駅周辺の町づくりなど、本市にとっても大きな問題。9月には、市議会議員10名で構成する「阿佐線対策調査特別委員会」がスタートし、調査を進めていくことになりました。



財政再建審議会が再開

昭和49年「財政ピンチ」の声とともに深刻さが表面化した「市の財政」。

昭和51年から、なんとか市の財政を立て直そうと「南国市財政再建審議会」を設置、第1次再建計画がスタートしました。昭和53年度からは、一般会計が黒字に転じたものの、公社に対する負債が多額で、比江山を処分したものの赤字解消にはまだ10数年がかかりました。9月12日、1年ぶりの会合が開かれ、第2次再建計画がスタートしました。